

(第 12 号様式)

学 位 論 文 の 要 約 (研 究 成 果 の ま と め)

氏 名 西川 厚嗣

学位論文名 能動喫煙及び受動喫煙と潰瘍性大腸炎リスクとの関連：日本における症例対照研究

学位論文の要約

近年、アジア地域において潰瘍性大腸炎の報告が増加している。潰瘍性大腸炎は能動喫煙により発現リスクが低下することが知られているが、これまでは欧米からの報告が主であった。日本を含むアジアからの疫学研究の報告は限られており、日本において症例対照研究（潰瘍性大腸炎患者：384 人、コントロール群 665 人）を行った。喫煙歴のない潰瘍性大腸炎患者と比較し、喫煙歴（能動喫煙および過去の喫煙）のある潰瘍性大腸炎患者でリスクの増加傾向を認めた(*adjusted odds ratio* OR = 1.70, 95% confidence interval CI: 1.23–2.37)。能動喫煙と潰瘍性大腸炎に明確な関連は認められなかったものの、過去の喫煙は発現リスクが増加した(*adjusted OR* = 2.40, 95% CI: 1.67–3.45)。また、喫煙本数と潰瘍性大腸炎の発現に量–反応関係が認められた (*P for trend* = 0.006)。家庭内の受動喫煙において、潰瘍性大腸炎は発現リスク上昇を認め (*adjusted OR* = 1.90, 95% CI: 1.30–2.79)、受動喫煙の本数と潰瘍性大腸炎の発現に量–反応関係が認められた (*P for trend* = 0.0003)。以上、日本における研究においても、潰瘍性大腸炎の発現リスクとして喫煙歴および受動喫煙は考えられることの知見を得た。[Nishikawa, Keiko Tanaka, Yoshihiro Miyake, et al. 2022 : 主論文]。

この研究は愛媛大学大学院医学系研究科での倫理委員会によって承認されており、同様に協力施設における倫理委員会においても承認されている。

主論文 : Atsushi Nishikawa, Keiko Tanaka, Yoshihiro Miyake et al. Active and passive smoking and risk of ulcerative colitis: A case–control study in Japan. *Journal of Gastroenterology and Hepatology* 37(2022) 653–659, doi:10.1111/jgh.15745